

あとがき

〈編集顧問〉

太田 保世
諏訪 邦夫
堀江 孝至
村山 正博

〈編集委員〉

相澤 久道
石坂 彰敏
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
三嶋 理晃

〈編集協力委員〉

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔

(五十音順)

フランクフルトから120 kmほど東に進むと小さな中世都市、ヴェルツブルグに着く。ドイツ鉄道の誇るインターシティで約1時間の道程である。駅を出て、ピショップを護り続けたマリエンベルグ砦を右に仰ぎつつレジデント方向に進むと、大きな通り越しに明るい色の小さなハウスが見えてくる。これがレントゲンハウスである。第1回ノーベル物理学受賞者 ヴィルヘルム・コンラッド・レントゲンが1895年にX線を初めて発見した場所として知られている。翌1896年にはアンリ・ベクレルがウラニウムを、次いで1898年にはマリ・キュリーとピエール・キュリーがラジウムを発見した。まさに放射線医学の黎明はこの4人に収斂している。しかしながら、これは光の部分である。影はすぐに現れた。まず、放射線同位元素を見出したピエール・キュリー、アンリ・ベクレル、そしてマリ・キュリーがそれぞれに放射線障害を病んでいる。ピエール・キュリーは若くして、ベクレルは55歳で他界し、マリ・キュリーは66歳でついに白血病で亡くなっている。この3人は新しい放射線同位元素の発見を先行させ、健康障害へのリスク管理を二の次にしたのであろう。皮肉にも貴重なエビデンスが遺る歴史的結果となった。肝に銘ずべき事実である。なおレントゲンはこのX線研究の後、1900年からミュンヘン大学に移り、その後20年は圧電効果などX線以外の研究に没頭したが、1923年78歳でがん倒れている。

今回の特集テーマは「循環器診療における放射線防護」である。カテーテル診療はその診断・治療において衆目の一致する優れたアウトカムをあげてきた。焦点は度重なる放射線被ばくの問題である。用量依存的に患者サイド、術者サイドに放射線障害を発生する。如何に対応するかが問われている。特に、MDCTの普及とともに新たな課題も生まれている。今月はカテーテルチーム医療に携わるあらゆるヒトが必読すべき特集となっている。

(和泉 徹)

呼吸と循環 (第57巻 第9号)

2009年9月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

(2009年, 年ぎめ予約購読料 31,800 円)
電子ジャーナル閲覧オプション付 41,400 円
(税込み, 配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 樋川・今田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2009, Printed in Japan.

• 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。